

**腸上皮化生と *Helicobacter pylori* :
胃前庭部からの内視鏡的生検による検討**

Intestinal metaplasia and *Helicobacter pylori*: an endoscopic biopsitic study of the gastric antrum: Craanen ME, et al (Gut 33: 16-20, 1992)

腸上皮化生と *Helicobacter pylori* (以下, HP) 感染との関連性を明らかにする目的で, 533 例の患者の胃前庭部から 2,274 個の生検標本を採取し, 組織学的な検討を行った。

腸上皮化生は 135 例 (全体の

25.3%) に, HP 感染は 289 例 (同 54.2%) に認められ, 共にその頻度は加齢につれて上昇した。すなわち, 年齢を 50 歳以上と 50 歳未満に分けた場合, 腸上皮化生は 0.1%, HP 感染は 5% 以下の危険率をもって高齢群で有意な高値を示した。また, 腸上皮化生は HP 陰性例 (15.2%) に比し HP 陽性例 (33.9%) により高頻度に見られた ($p < 0.001$)。更に, 腸上皮化生陽性 135 例のうち HP 陽性者 98 例の平均年齢は 64 歳, HP 陰性者 37 例のそれは 72 歳で両者間に有意差 ($p < 0.005$) を認めた。一方, 腸上皮化生の程度については両者に

差を認めなかった。

今回の検討で著者らは, HP 感染が胃粘膜に腸上皮化生のような組織的な変化を引き起こす直接的な原因となっていることを証明することはできなかったが, 少なくとも腸型の胃癌の発生母地として認識されている腸上皮化生粘膜の進展に, HP 感染が重要な因子として関わっていることを推察し, そのメカニズムについては今後の課題としている。

(愛知県がんセンター消化器内科

鈴木 隆史 抄)